

地区だより すすすま

第60号
平成12年2月5日
須々万地区
人口5346人
世帯数1797世帯
平成12年1月
発行須々万地区まちづくり
推進協議会
須々万公民館



新年を迎えて

須々万支所長

実近 裕司

新春歩こう大会

一月一日

あけましておめでとつございませう

西暦二千年の区切りの年に、皆様と共に輝かしい初日の出を見、また素晴らしい雲海も望むことが出来ましたし、今年が良い年になる様な気がいたします。

さて、今年には社会保障制度も新たに介護保険が加わり高齢者への支援活動が始まります。これから増えると思われる在宅高齢者の支援活動には地域の方々のご支援、ご協力が不可欠です。住みよい地域づくりの一環としてご理解を賜りますようお願いいたします。

昨年は三年ぶりの運動会を始め、各行事の皆様の協力を賜り無事終えることが出来ました。本年も活力のある須々万の里づくりに、職員一同邁進いたしますので皆様の支援をお願いいたします。

新年に当たり皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

須々万 朝市めぐり

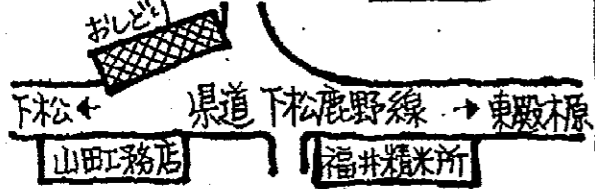
其の四 水曜朝市おしどりグループ



水曜朝市おしどりグループ

(代表者 藤林)

宝珠寺



場所：高橋

時間：毎週水曜日朝6:30～

(屋まごひとくき)が無人の時
は料金箱に入札はok

- ☀️ 1品どれでも100円
 - ☀️ おもち(6~8月はなし) 手作りこんにやく、小麦粉、そば粉 各種漬け物もあり。(いなかのたくあん 大好評)
 - ☀️ 袋に材料や提出者、日付なども明記
 - ☀️ お正月明けには七草も出ました!
- 当番さんはかわいいおしどりのネーム入エタンをさせていただきます。くわがります。一品の量が多いのも魅力。野菜もいっぱい。きびを初めて見ました!!

朝市めぐりの最終編は上・下牛の毛と高橋の三地区の皆さんで運営をされているおしどりグループです。地域運営の朝市としては須々万の第一号。手づくりへのこだわりとその種類の豊富さにひたすら感動の取材となりました。

地域をむすぶ おしどりの輪

男女を問わずおしどりの様に皆仲良くやっつけていこうと三地区三十人で八年前にスタート。現在十六人ですが、年中無休・早朝の市が長く続く秘訣は命名通り互いの協力にあります。

三地区の四十代から八十代の方々が一緒に取り組むことで皆がよく知り合え、本当の地域のふれあいになっています。藤林さん、早朝なので出勤前に買って一旦家に帰れて大助かり!!と中には五時半頃から来られるお客さんもあるそうです。夏はともかく冬の六時前といえば真暗。前は懐中電燈や車のライトの中で接客をしたことがありますが、当番の負担になってはと現在は発電機を設置。取材当日も

この日は雪。おほどいかな限り、あけていませうと皆さん



たのあげ大会(1月9日)

- | | |
|---------|-----------|
| — 高揚賞 — | — アイデア賞 — |
| 藤井 勝駿 | 安原 徳光 |
| 中野 航介 | 佐藤 翼 |
| 平岡 佳一郎 | 神田 大樹 |
| 岩田 華寿沙 | — 特別賞 — |
| 小野 幸子 | 重岡 直翔 |
| 小笠原 直也 | |

(須々万地区子ども会主催 沼城小学校庭にて)

カラオケ教室メンバー募集!!

“みなさんでカラオケ楽しみましょ!”
 (木)20:00~22:00
 改善センター
 入会希望者は 河村 まり (88-0769)
 お待ちします♡

今年も行われた恒例の歩こう大会。子どもから大人までたくさんの方が参加されました。みごやかな雲海の中での二千年幕開けの御来光は近年にない素晴らしいものでした。朝六時に出発して約一時間の道のりですが、初日の美しさは登った人だけが味わえるもの。皆さんも来年は是非行ってみませんか?

雪の舞う中数名の方がたき火で暖を採りながら待っていて下さいました。野菜、漬け物はもちろん驚いたのは小麦粉、そば粉、はったい粉まであったこと。名物?のおもちも。たいがらを食べて皆で作られます。昨年まではもち米も共同生産とか。鏡餅の請け合いもあり十二月は大忙しですが、年中餅つきです。と笑顔の皆さんに手間隙かけた朝市づくりの魅力と素晴らしい感じました。

むかしむかし 須々方の里に

年も新たまり、須々方の里も西暦二〇〇〇年を迎えました。今回の「むかしむかし」は、新しい年にふさわしくロマンチックな埋蔵金伝説と須々方に飛来したという丹頂鶴の話の二話を紹介いたします。

朝日かがやく

須々方埋蔵金伝説

朝日かがやく夕日がこもる
—— 須々方小判千両 ——

こんな歌のようなものが、須々方下角あたりには伝えられています。

そのあたりのおとどよりによるとこの歌とともにこんな話が伝えられているといふことです。

昔、須々方下角のあたりに徳王丸という豪族がおりました。その一族はたいへん裕福な暮らしをされていたといわれています。

さて、その家の代々の伝えとして、「このあたりの土中に相当の黄金が埋められている。もしも後世この地の八幡宮に何か異変でもあったならば、その金を掘りだして使うように。」

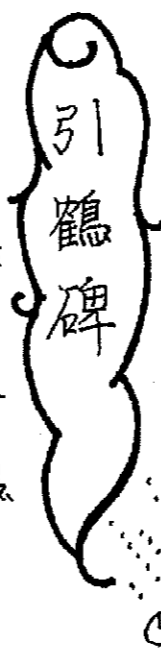
とありました。そしてそのことの後世に伝えるものとして、前記の歌のようなものが今に残されているといふのです。

長い時が過ぎ、今やその話を知る人も少なくなりました。しかし、黄金を土中に埋めるといふことは昔はよくあったといふことですから、この埋蔵金伝説も単なる言い伝えではないかもしれせん。

土中の黄金が掘り出されたという話は未だ聞いていませんので、もしかしたらわたしたちの足下に燦然たる光を隠して今も小判千両が眠っているかも。

(須々方村風土誌・すすま今昔集より)

いづれ場所はおぼろげに見当がつかないらしい



須々方に飛来した丹頂鶴

昭和二年の秋のことです。突然二羽の丹頂鶴が須々方宮の前あたりに飛来したのです。鶴は飛び去ることもなく終日田んぼで餌をついばんでいました。

そしてその冬には、桜久保の川岸に巣を営み産卵したのです。人々はたいへん喜び、ふ化する日を楽しみにしていたのですが、残念なことにその徴候はなく、そのうちに卵もなくなってしまいました。

しかし、翌昭和三年には高樋のため池のあたりで再び産卵。この度は無事にふ化して、二羽のひな鳥は順調に生育しました。親鳥と連れだって遊ぶひな鳥のかわいい姿は人々の目を惹きつけていました。その後、一時期には八羽にも殖えて



高樋のため池であそぶ鶴

いきましたが、病気がたおれて死んでしまったり、飛び去ってしまったものもあったといふことです。なお昭和十二年頃からは、夏の間にだけは飛龍八幡宮境内に移されて飼育されたといわれています。残念ながら今では鶴が田んぼで餌をついばむ風景を見ることはできませんが、高樋にはこの丹頂鶴の飛来を長く人々に伝えようと、「引鶴碑」が建てられており、地域の人々に大切にされています。(すすま今昔集より)

※今回の二話についてはそれぞれの資料をもとに、ゆかりやすくするため多少手を加えています。また丹頂鶴については引鶴碑にも記されています。是非ごらん下さい。

須々方の想い

山本 公一郎

この三月末で定年退職を迎えられる沼城小の山本校長先生。実はこの須々方と不思議な縁をおもちです。この地に寄せる想いを綴って下さいました。

自分の勤めのスタートとゴールがこの須々方になるとは思っていませんでした。——。須々方中学校に教員として初めて勤めるようになったのが、今から三十八年前のことである。小学校も中学校も今は新しく建替えられ、場所も以前とは変わっている。当時の中学校は今の保育園の所であった。生徒数は各学年二、三クラスが今より多かった。その時の教え子たちは今や五十年代となり、社会で大いに活躍中である。

一昨年、沼城小に赴任した時、当時の教え子たちにお久しぶりですと声をかけられた。教え子ばかりではない。いっしょに酒を酌交した当時の



若い人たちがまごまご話しかけてこられた。懐かしさといふよりよく覚えておられることにびっくりした。早速、同窓会が二年続いて開かれた。三十数年ぶりに会い、昔の話に花が咲く。不思議なことに話すうちに教え子たちの顔が昔の顔に返ってくる。長い教員生活の最後をこの地で終えることに本当に満足している。

今須々方の様子は当時からは想像ができません。いほどの変わりようだが、心の温かさは三十年前と変わっていない。自分にとって須々方は忘れられない所となった。

編集後記 西暦2000年の第1号は雪とインフルエンザに苦しめられての編集でした。大雪の中長ぐつをはいて朝市の取材に行き、カゼどぼんやりした頭で原稿を書いてやっと出来上がった地区だより、感想などありましたらぜひお聞かせ下さい